

コラム編

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース 公開日: 2015-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 天野, 浩二, 海野, 未樹, 李, 玉潔, 戸塚, 翔, 行田, 望音, 秋山, 陽香, 小林, 亮太, 高, 源, 渡邊, 萌子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/8075

コラム編



みんなで楽しいお食事

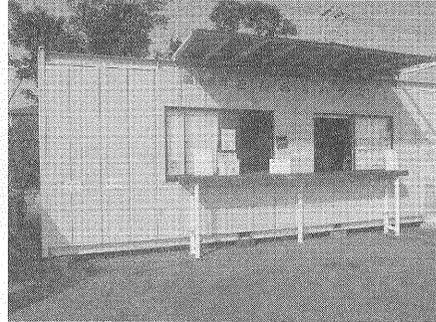
撮影：小松 かおり

用宗港でフィッシング

天野浩二

私は釣りをすることが大好きです。天気が良くて暇さえあれば、原付で東は清水港や三保、西は焼津の石津浜まで行きます。用宗港は静岡大学から一番近い港ということもあり、フィールドワーク調査以前に何度か釣りに来ていました。

用宗港は色々な種類の魚が狙え、よく釣れます。私が知っているポイントの中で1番初心者におすすめのポイントです。秋に用宗港を訪れたときには、エサ釣りでベラが大量に釣れました。サビキ釣りでもサッパがたくさん釣れました。そして、フカセ釣りやダンゴ釣りで大きなクロダイやメジナが釣れます。周りの人が釣りあげるのを目にして、私も何度か挑戦していますがいまだにクロダイが釣れません。



そして用宗港に釣りに行くと、釣り以外にも楽しみがあります。釣りに行った帰りによくどんぶりハウスでシラス丼を食べます。それと、個人的にお気に入りの景色があります。それはシラス漁の漁船の船団が用宗港を出発し沖へ向かう風景です。数分の間、船団が途切れることなく沖へ向かう風景は迫力があり、用宗のシラス漁の活気が伝わってきます。



上の写真はシラス漁船の船団が用宗港へ帰ってくる風景ですが、出発の風景はもっと迫力があり、釣りに興味が無い人も、この風景を見るためだけに朝早く用宗港を訪れる価値があると思います。

コラム

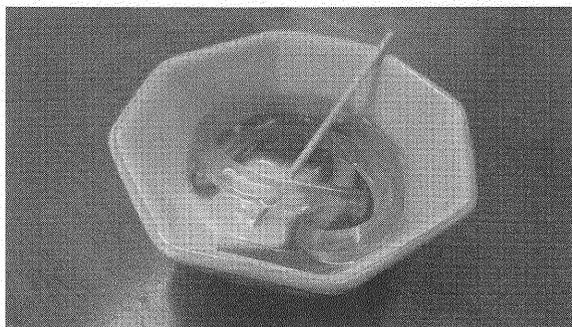
海野未樹

事前準備や報告書は本当に苦労したけれど、用宗での1週間の調査は貴重な体験が多く、楽しく過ごすことが出来ました。

2日目に、シラス漁を見学するために漁師の方々に同行して、船に乗りました。朝早くの出港で眠気が強かったのですが、船は思っていた以上に速度をだし、潮風を感じられて爽快でした。船内に機械がたくさん置かれている様子を見ながら、激しく波に揺られてディズニーシーのアトラクションを思い出しました。



下の写真は用宗のところてんというお店で試食させてもらったところてんです。酢醤油と黒蜜、お店こだわりの弾力のあるところてんと柔らかめのところてんなど、色々比べさせてくれました。お店にはところてんを使ったデザート（ゼリーや杏仁豆腐）も種類豊富で、私はグレープフルーツのゼリーを買って帰りました。すごく美味しかったです！



実習中には他にもバーベキューや山登りなどをしました。また、インタビュー先の加工業者の方にはいきなり尋ねたのにも関わらずシラス干しをいただきました。用宗の皆さんには本当に優しくて、感謝しています。ありがとうございました。

フィールドワークはこんなことなのだ！

用宗ってこんな町なのだ！

李 玉潔

フィールドワークはとにかく人生初めての経験でした！それは文化人類学コースに入る前には想像もしなかった授業の形式でした。コースの仲間と先生と調査地に1週間ほど泊まり込み、勉強でも生活面でも協力し合って、フィールドワークのおかげで初めて皆とこんなに近づけました。先生たちにテーマの方向性についてアドバイスしていただいたり、仲間に日本語を教えてもらったり、手に傷がついたとき、おにぎりを握る担当を代わってもらったり、私はフィールドワークで緊張しながらも心が温まりました。

調査地で用宗の住民にインタビューする時は時々言っていることが分からなく、皆様は親切に何度もわかりやすく説明してくれました。現地のことについて知識が少なかった私は、文献を読んでもっと用宗のことを知っておいたほうがよかったのにと後悔していました。公民館の役員さんたちは私たちにすごく優しく、地図をコピーしてくださったり、インタビュー対象がいなくて困っている私たちに「そのことなら、あの人が詳しいですよ」と教えていただいたりして、用宗のフィールドワークに協力していただいた方々に本当に心から感謝しています。

フィールドワークで色々な勉強ができた以外に、私にとって一番の収穫は用宗のことや、用宗独自の風格を知ることができたことだと思っています。山にも海にも恵まれている町で、「用宗は住みやすいよ」と何度も住民たちの誇りを持つ言葉を聞きました。インタビューの時に出していただいた美味しい前田農園のモモ、突撃インタビューの帰りに「これを持っていきな」といただいた美味しいピワ、夜海岸で見た美しすぎる満月、干し物屋さんから見せてもらった面白い自作絵などなど、全て私のいい思い出となりました。

用宗と出会ってよかった、また用宗に行きたいと今でも思っています。



用宗のカワイイ看板

僕は歩くのが好きで、実習中、時間が空いているときはよく町の中をぶらぶら歩いていた。インフォーマントが少なく暇な時間が多かったので、広野の八坂神社の方まで歩いて行ったこともあった。風景を見ながら歩いたり、わざと遠回りして歩いたりした。歩いているんな神社を見に行ったり、庚申塔を探したりする今回の調査は僕に合っていたと思う。いろんな道を開拓するのが好きで、例えば旅館に帰るときなんかは毎回違う道を通って帰った。歩いているといろんな発見があって、ここにこんな建物があるんだ、とか、この道はここに繋がっているんだ、とかそういうことを考えながら歩くのが楽しかった。そうやって一週間も過ごしていると、だんだん用宗の地理に詳しくなっていって、最初は地図を見ながらじゃないとたどり着けなかったようなところも、地図を見ずに行けるようになったし、迷わなくなった。ぶらぶら歩いている途中で偶然会った人に話を聞くことや、調査に関係のありそうなものを発見することもあった。足で稼ぐという言葉があるが、今回の報告書はまさに、歩き回って書き上げた、足で稼いだ成果だと思う。



↑城山の頂上から見た用宗

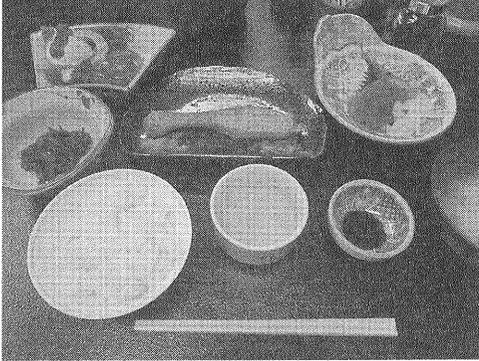


↑用宗の海岸

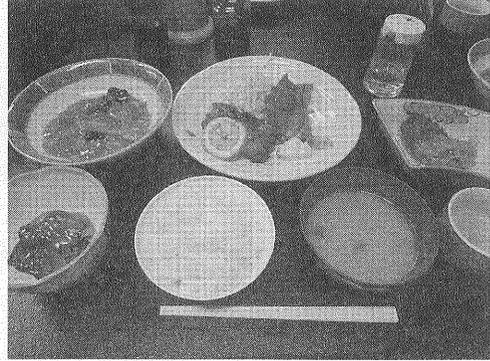
実習中のご飯は、誰よりもよく食べていました。

行田望音

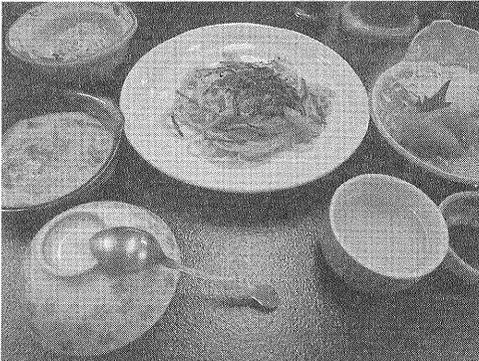
「行田さん、毎日の夕食の記録取ってみたら〜？」と先生に言われたことをきっかけに、わたしは一週間の間、文化人類学コースの中でのグルメレポーターになったのであった。以下、柳屋旅館での夕食5日分+バーベキューの写真である。ごちそうさまでした！



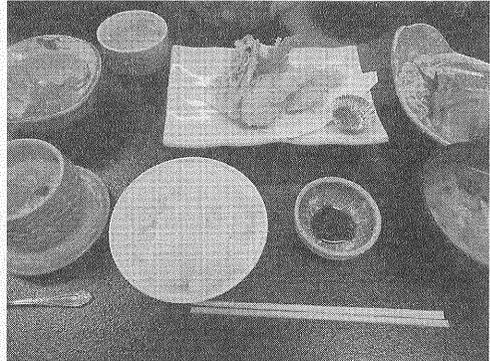
1日目、マグロ美味！（これがほぼ毎日続く）



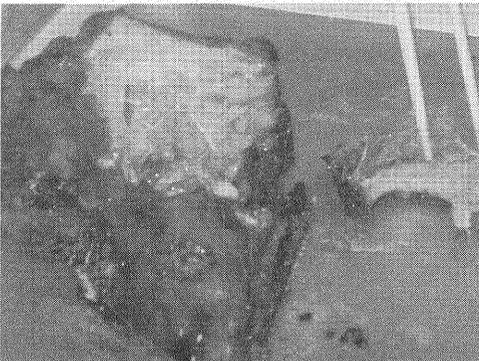
2日目、生シラス！あとナスも好きな味。



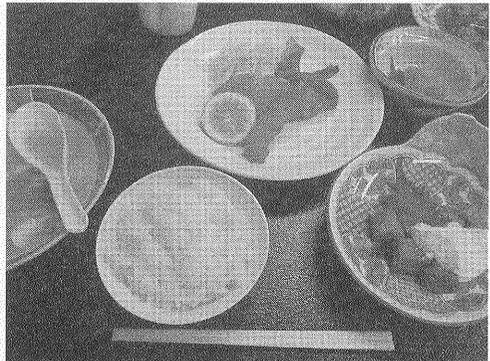
3日目、まさか洋食が出てくるとは…！



4日目、茶碗蒸し(ちょっと苦手)美味しい。



5日目、脂がのっていてとろけるような旨さ。



6日目、最終日だなんて悲しかった…

去年の10月にフィールドワーク実習の調査地が発表されてから、1年もの間用宗地区に関わってきた。気づけばあっという間であり、1年前と比較して用宗地区の印象はがらりと変わったことを改めて感じる。私は県内出身者であるものの用宗地区を訪れたことがなく、はじめの印象は「お、用宗か…海！シラス！…おおお！」という非常に単純思考なものであった。

しかし、現地に足を踏み入れてみると、今まで知らなかった用宗地区の魅力をたくさん知ることができた。なかでも私が特に感じたのは、安心感である。まちの雰囲気がどこか懐かしく、用宗地区全体がさほど大きくないため、毎日徒歩でさまざまなところを訪れた。ここで、お気に入りの写真を3つほど紹介したい。1つ目は「城山さん」と呼ばれる持舟城趾からみた景色である（写真1）。ここから臨む海、まち、そして富士山はたいへん綺麗だった。

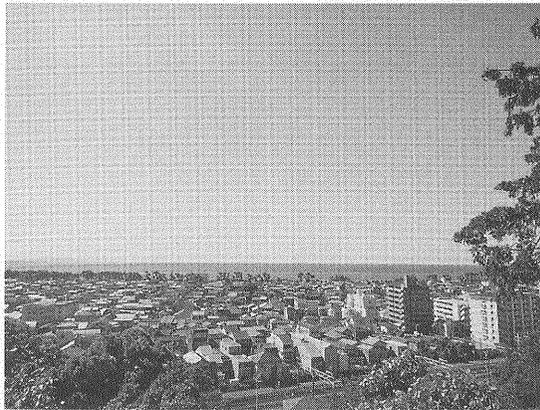


写真1 「城山さん」からみた用宗地区と海

2つ目は、今年4月に参加した用宗漁港まつりの前夜祭の一場面である。ここでは、「用宗ミセス」という団体の女性たちがきらびやかな衣装で演舞を披露している（写真2）。また、このとき踊るおばあちゃんを応援しようと、ステージの前に多くの子どもたちがいてたいへん和やかな様子であった。



写真2 「用宗ミセス」の演舞と観客の子どもたち

3つ目は、用宗駅から海岸まで続く道である（写真3）。用宗3丁目から5丁目周辺は家と家の間にある道がたいへん狭く、小学生の頃に戻って探検をしているような高揚感が湧いて楽しかった。



写真3 用宗海岸へ続く道

今回、人と自然が共生したこの用宗地区で調査ができて良かった。加えて、毎日のご飯が本当においしかった！これは声を大にして言いたい。旅館でいただいた料理や無人販売所の果物、いただいたシラスなど、食事に困ったことは1つもなく、用宗地区は食に恵まれたまちでもあると感じた。ご飯と癒しをもらいに、この地をまた遊びに訪れたいと思う。そして、この実習で培った経験を今後活かしていきたい。

最後に、今回調査に協力してくださったすべての方々から感謝申し上げたい。

コラム

知られざる観光名所

小林亮太

世の中には様々な趣味趣向を持つ、いわゆるマニアが存在する。私は山やアウトドアが好きだ。特に山道具を集めることが好きだ。山道具マニアである。聞くところによると、世間には鉄道マニア、廃墟マニア、巨大建造物マニア、工場マニアなどいろんなマニアが跳梁跋扈しているらしい。

今回のフィールドワーク調査では、新たに廃線マニアという存在を知った。廃線とは、現在は使われなくなった鉄道路線や未完成のまま放置された路線のことを言う。廃線マニアとは文字通り、このような廃線を好むマニアである。広義の鉄道マニアとも分類されるようだが、廃墟マニアの側面も持ち合わせていると考えられる。

今回のフィールドワーク調査地である用宗の近くにも廃線が存在する。用宗地区の西隣にある石部（せきべ）である。静岡市石部は、山を挟んでお隣の焼津市と隣接している。

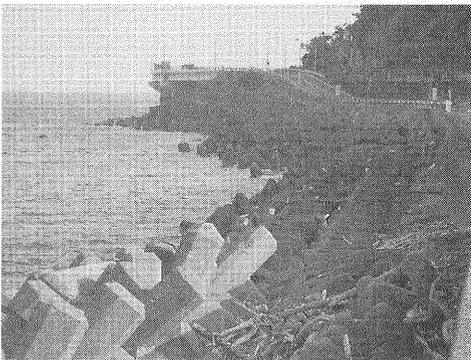


写真1 海上にせり出した橋

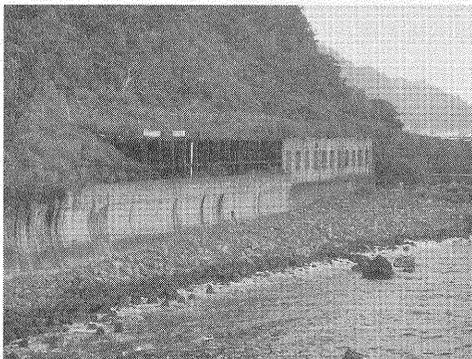


写真2 海上橋からみた廃線（旧石部トンネル）

この山は海岸で大きく切り立っており、大崩海岸と呼ばれている。「天下の奇勝」とか、「東海の親不知」とも呼ばれているらしい。「大崩」の名の通り地盤が安定しない土地である。実際に2014年10月20日現在、大崩海岸は今年の台風の影響で通行止めになっている。がけ崩れや地盤沈下が頻繁に起こるためか、大崩海岸を通る道路は、一部分海上に橋が架かっており、せり出している。ちょうど、こ

の海上にせり出した橋の横あたりに廃線が存在している。これは旧石部トンネルと呼ばれている。インターネットで調べてみると、けっこう有名なようで、潜入レポートを多数発見することができた。私はフィールドワーク中で、暇なときはあたりを散歩したり、バイクで走り回って遊んでいた。もちろん旧石部トンネルにも訪れた。なかに侵入してみようと試みたが、草が生い茂っていたことや、危なかったこともあり、さくなく断念している。

旧石部トンネルに侵入するための入口は石部側から海上橋をこえ、カーブを現在のト



写真3 入口にある立て看板

ンネルをくぐり、カーブを少しすすんだところにある。道路の横のアスファルトで舗装されていない草むらから入ることができる。少なくない数の人がこの廃トンネルを訪れているようで、踏み跡によって道の部分だけ草が生えておらず、方向が明確にわかるようになっている。それどころか、誰が設置したかはわからないが、ご丁寧なことに看板まで設置されている。しかもこの入口と道路を挟んで向かい側には無人の駐車場まで完備している。1時間 100円と

書かれていた。駐車場の付近には、人がおとずれるような施設やスポットは旧石部トンネル以外に何もない。この駐車場は廃線を訪れる廃線マニアたちのために設置されたとは思えない。

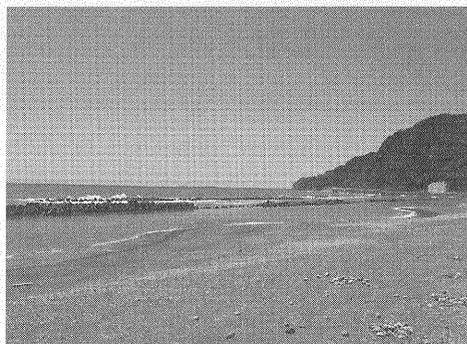
このほかにもこの大崩海岸には、ロッククライミングができるような岩場や、登山ができるハイキングコースなどが存在している。一般にはあまり知られていないが、様々な観光スポットが存在する場所なのだ。報告書には載せなかったが、せっかく調べたことなのでコラムの場所で、供養の意味もこめて書かせてもらった。興味のある方は是非一度いつてみてはどうだろうか。

コラム

高源

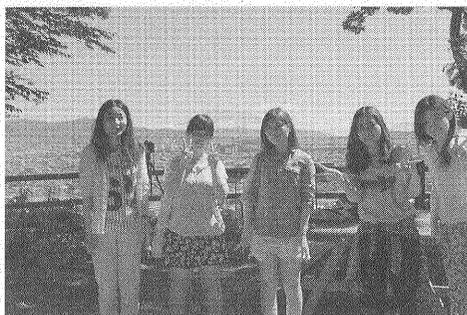
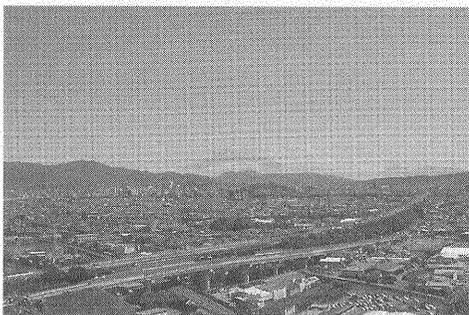
「用宗」という地名を聞くだけで、静岡の多くの方は「しらす、漁港」を頭に浮かべるのではないだろうか。私もその多くの人の中の1人だったが、6月8日から6月14日にかけて、用宗での1週間のフィールドワークを通して、私は用宗の様々な魅力を感じた。なので、コラムでみんなに「用宗のステキ」をいくつかご紹介したい。

1. 青い空、それより青い海



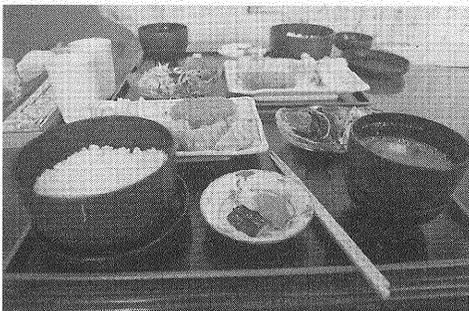
(渡邊萌子 撮影)

2. 富士山や新幹線が見える城山

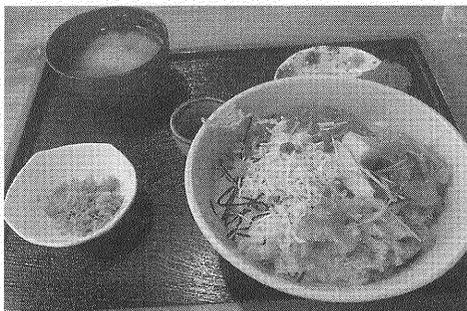


(名倉香織 撮影)

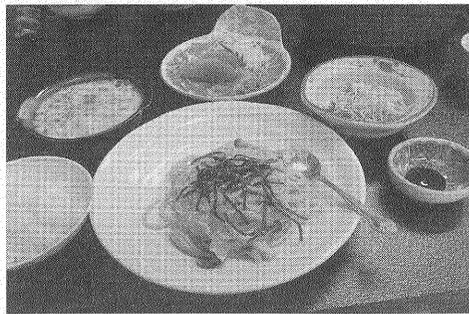
3. 用宗の素材と愛が詰まった料理



幸八という店のしらす餃子セット



Hana Hana の海鮮丼



豪華すぎる旅館料理

4. 情熱が溢れて、親切な「用宗人」



(渡邊萌子 撮影)

用宗にはまだいろいろな素敵どころがあるが、ここでは、4つのテーマから紹介した。皆さん、ぜひ用宗を散策してください。当然、私はまた遊びに行くよ。

最後に、お世話になった用宗の人々、一緒に頑張った仲間、私たちを指導してくれた先生方、本当にありがとうございました。中国語で言ったら、「十分十分十分感谢你们！」

フィールドワーク中の感動エピソード

渡邊萌子

1週間のフィールドワーク調査でたくさんの人に出会いました。
用宗の人はみなさん本当に優しい！！

～ここから私の感動したエピソード～

- ① インタビューの依頼でお電話したとき、「お茶用意して待ってるね、コーヒーと紅茶どっちがいい？」と聞いてくださるご夫婦が！本当だったらこっちがお茶を用意してもいいくらいなのに……。インタビュー中聞いたそのご夫婦の人生観にはとっても影響を受けました。
- ② 最終日、時間が空いていたのでふらふらしていると、一度インタビューに行った桃農家のお家のおばあちゃんと偶然出会いました。私たちのことを覚えていてくれて、「売り物にならないやつだけ」と言って桃を1つずつくれました。用宗の海を見ながらおいしくいただきました！
- ③ またまた最終日、公民館の方との約束の時間まで2時間ほど暇になってしまい、キャリーバッグと大きな荷物を抱えて困っていました。近くに一度誰かがインタビューに行った（自分には行ってない……；）薬局があったので図々しくも荷物を少しの間預かってもらえないか、ダメもとでお願いしに行きました。
すると嫌な顔ひとつせず荷物を預かって、「いってらっしゃーい。」と送り出してくれました。

まだまだたくさんありますが、このへんにしておきます。

まだ用宗に行ったことがない人には用宗を訪れて、おいしいしらすを食べて、ぜひぜひ私たちの人とふれあってほしいです！



BBQ をやらせてもらったかねいち干物店のご主人と